

Guten Tag

※ Guten Tag…ドイツ語でこんにちはの意味

日独スポーツ少年団同時交流事業により、ドイツスポーツ少年団（チェス）の団員と指導者の9人が7月27日から31日にかけて田川市を訪れました。



↑初めて踊る炭坑節。みんなで楽しく踊りました

よつぎん田川へ

この事業では、日本とドイツの青少年や指導者が相手の国を訪ね、お互いに交流することで、友好と親善を深め、国際的な能力を高めながら、スポーツの発展につなげていくことを目的に昭和49年以降毎年実施されています。

平成24年度は、九州グループの中で福岡県が幹事県となり、ドイツスポーツ少年団（チェス）の団員8人と指導者1人を迎え入れました。そのうち、田川市での滞在は4泊5日。この滞在中、団員たちは市内の家庭にホームステイし、田川の地を満喫しました。滞在初日となった7月27日には市役所を敬訪問。伊藤信勝市長から炭坑節Tシャツを贈られた団員たちは「アリガトウ」と日本語でお礼の言葉を述べました。

団員のリーダーであるフアービアン・グリムさんは「田川は初めて訪れた。予定されている行事すべてを楽しみたい。特に地域の人とのふれあいを大事にしたいと思っています」と抱負を語っていました。

2日目となった7月28日の午前中には、石炭・歴史博物館を訪れ、世界記憶遺産に登録された山本作兵衛氏の作品などを観賞。博物館の玄関ロビーでは、炭坑

節Tシャツに身を包んだ団員たちが、職員の踊りやTシャツの後ろに描かれた踊り方を披露しました。同日の夕方からは、それぞれホームステイ先の家族などと一緒に地域住民たちとのバーベキューや商店街の夜市などに参加。また、校区の夏祭りなどにも浴衣を着こなし参加するなど、たくさんの方の市民のみなさんと田川の夏の夜を満喫しました。

カヌーや弓道などにも挑戦

滞在4日目となった7月30日は、中元寺川水辺公園でカヌーを初体験。最後にはカヌーを飛び出し、泳ぎ出すというハプニングもありました。引き続き、田川市弓道場



↑カヌーに乗って水の上をスイスイ



↑田川市弓道連盟のみなさんからの指導によりみるみる上達

で弓道にも挑戦。もちろん弓道もみんな初めての経験でしたが、悪戦苦闘しながらも、最終的には上手に弓を使いこなし、矢的に当たっていました。

その後は、会場を後藤寺小学校体育館に移し、プロサッカーチームアビスパ福岡の浅野航兵コーチと一緒に、市内のスポーツ少年団である後藤寺ミニバスケットチームとレクリエーションゲームなどを行い、子どもたちと楽しい時間を過ごしました。

再会を約束して

7月31日、お土産などで大きくなった旅行かばんを持って、市民会館に集合した団員たち。長いようで短かった5日間が終わりを告

げました。田川で寝食をともにしたホストファミリーたちと涙のお別れです。

チーム指導者のクリスティアン・ヴァーネケさんは「5日間、本当に気持ちよく過ごさせてもらいました。お母さんの料理がとってもおいしくて、もっと食べたかったです。もう一度遊びに来たいし、ぜひドイツにも来てください」と感謝を言葉にしていました。

お別れをすませた後、団員たちはバスに乗り込み、次の目的地である長崎県諫早市へと出発。見送った人たちはバスが見えなくなるまで手を振り続けていました。

田川市からドイツの首都ベルリンまでは直線距離で約3千500km。遠く離れた異国の地田川で過ごしたたくさんの思い出を胸に帰国した団員たち。約束した再会の日が実現し、再び会える日が待ち遠しく感じられます。



↑また会う日まで。友情はいつまでも続きます